

招 へ い 研 究 者 報 告 書

招へい研究者氏名	Joachim Renzikowski (ヨアヒム レンツィコフスキー)		
招へい期間	(西暦) 2023年 2月 8日 ~ 2023年 3月 27日		
受入機関	法務研究科		
受入担当者	所 属	法務研究科	資 格 教授
	氏 名	佐川友佳子	
<p>講演会実績 (本欄は国際部 HP にて公開します)</p> <p>○<u>研究者向け</u>講演会タイトル：ドイツ性刑法の発展過程 ○日時：2023年2月28日(火) 15時～16時30分 ○概要：講演では、ドイツにおける性犯罪規定、それを巡る裁判例や議論の状況など、具体的な事件を例に詳細にご紹介いただいた。ドイツにおいては性犯罪に対する細かい規定が置かれるようになっているが、当初からそうだったわけではなく、背景に社会的にも性犯罪に厳格に対処していこうという様々な議論の展開があり、更に近時は児童の性的虐待の問題なども踏まえて、小児性愛の問題にも非常に厳しい対応が取られるようになっている。性的行為に対する同意についての捉え方などは、性的同意を巡る問題について日本においても類似の議論があり、現在の日本の性犯罪規定の改正についても非常に参考になった。他大学からも多数の研究者にご参加いただき、活発な議論がなされた。</p> <p>○<u>学生向け</u>講演会タイトル：規範論と帰属 ○日時：2023年2月27日(月) 15時～17時 ○概要：講演では、ドイツにおける帰属論の問題と正犯・共犯概念との関係について、規範論をベースに検討すべきとの立場から、現在のドイツで通説的立場にある客観的帰属論の問題点を非常に詳細にお話しいただいた。比較的難解なお話ではあったが、ドイツの因果関係に関する議論を踏まえ、具体的事案を通じてお話しいただいた。質疑応答では、レンツィコフスキー先生ご自身もまだ考えを十分に詰めきれていない部分もあるとのことで、これを契機に今後一層研究を進展させたいとのことであった。</p>			